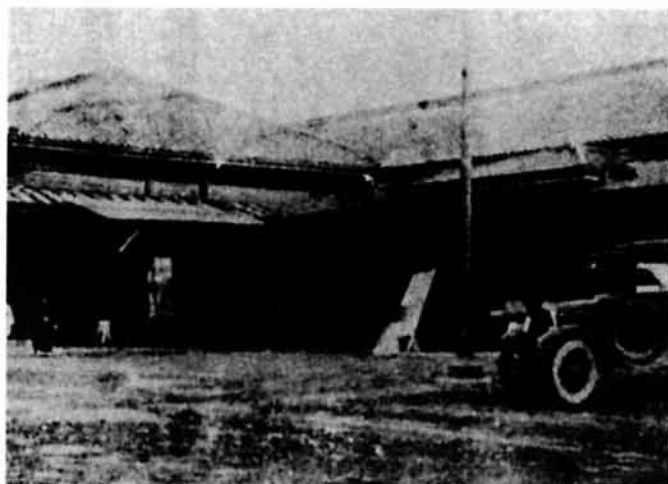


(五)

交通・通信の発達

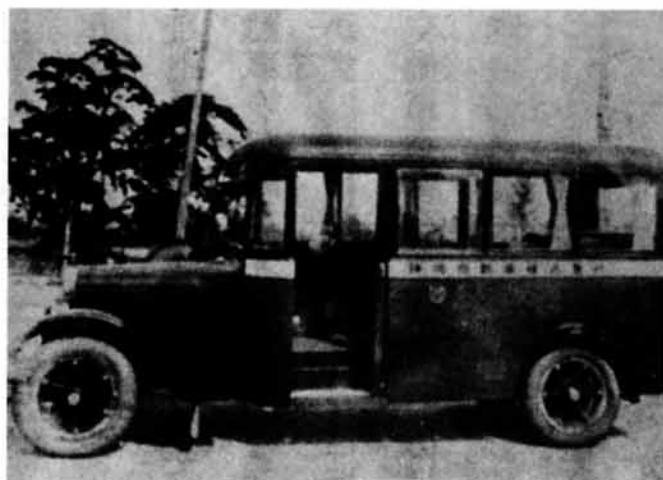


大正時代の姫路駅

山陽鉄道 一八八六年（明治十九年）十二月、山陽鉄道株式会社かぶしきができ一八八八年一月から神戸・姫路間の鉄道建設工事が始まりました。工事は大急ぎで進められ、わずか十一か月で完成して、同年十二月二十三日に開通しました。

すでに、東海道線が開通していましたが、姫路から東京まで直通列車で行けるようになり姫路市の発展に大いに役立ちました。一九〇一年（明治三四年）五月には、山陽鉄道は下関しものせきまで延長えんちようされましたが、一九〇六年に国有化され、国鉄山陽本線になりました。

同年に、飾磨、姫路、和田山わだやまを結ぶ播但線ばんたんが開通して、山陽と山陰さんいんとが結ばれ、姫路は陸上交通の要所となりました。さらに、一九



昭和初期に姫路地方で走った  
乗合自動車

三六年（昭和十一年）には姫路と津山との間に姫津線ひめつが開通しました。

一九七二年（昭和四七年）三月、山陽新幹線の新大阪・岡山間が開通し、一九七五年には博多はかたまで延長されました。当時姫路駅には「こだま号」の全列車

と「ひかり号」の五分の二が停車し、西播磨の拠点都市きよてんとしての重要さをいよいよ増しています。

国鉄は、一九八七年（昭和六二年）に民営化され、JR西日本株式会社になりました。

一方、民間の電車線の建設も進められ、一九二七年（昭和二年）には、兵庫と姫路の海岸線を直通運転する電車が出現しました。現在の山陽電気鉄道で、姫路市民の足として利

用されています。

**自動車網** わが国に初めて自動車走ったのは、一九〇〇年（明治三十三年）でした。大正天皇のご成婚せいこんをお祝いして、サンフランシスコにいた日本人が自動車けんじょうを献上したのが始まりです。

姫路では、一九一〇年ごろから乗合自動車のりあいが走り始め、その後、多くの乗合自動車会社が出来ました。今のバスとちがって、五人か六人乗りの小型で、自動車の台数が少なく、小さな会社はげしい競争をしたため、経営がうまくゆかず、昭和初年にできた神姫バスに相次いで合併されました。

姫路市営バスが出来たのは一九四六年（昭和二十一年）のことです。



日本最初の切手

**郵便と電信電話**

一八七一年（明治四年）、福中町

に姫路郵便受取所が開設され、二年後には電報の取り扱いも始まりました。これまで飛脚ひきやくにたよっていた人たちは、政府のつくった郵便制度を利用しましたが、電報は料金が高かったので、利用者は限られていました。

一八八九年（明治二二年）七月、郵便と電報の仕事が統合され、翌年五月、古二階町こにかいに新しい庁舎が建設されました。一九〇三年（明治三六年）に、姫路郵便局と名前が変わり、第二次世界大戦後、現在地に移転しました。

電話は、ずっと遅れて一九〇三年、姫路電話所でんわじょが開設されました。東は京都、西は岡山までの主要な町と電話で話ができるようになりましたが、電話機の値ねだんは、たいへん高く、役所や商店、会社などで利用されるだけで一般いっぱんの家庭には、まだ取りつけられていませんでした。一九〇七年（明治四〇年）に、交換こうかん業務ぎょうむを開始したころの姫路の電話台数は、百五十一台しかありませんでした。

今、電話は、ダイヤル即時通話になり、姫路から日本全国どこへでも、すぐ

かかり、世界の主要都市とも話ができるようになりました。平成十二年度の姫路市の加入電話の台数は二十万二千四百五十台に達しています。

### 電気とガス

姫路に初めて電気がついたのは、一八九八年（明治三十一年）

六月一日でした。そのときの電燈でんとうの契約戸数は二百戸でしたが二〇〇〇年度

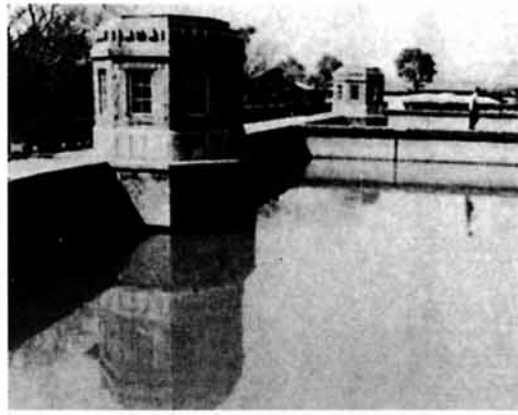
（平成十三年度）には、市内二十九万四千六契約戸数に電燈が普及ふきゅうしています。

また、ガスの使用が始まったのは、一九一一年（明治四四年）七月で、神屋町かみやに姫路瓦斯株式会社がすができ、ガスを製造して家庭に送りました。二〇〇〇年度（平成十三年度）の都市ガス使用戸数は八万一千五百八十四戸です。このほかの家庭ではプロパンガスを利用しています。

### 上水道

大正の中ごろ、姫路市は市川の水を引いて上水道をつくる計画を

たてましたが、取水口付近の人たちが反対して、工事がおくれ、一九二九年（昭和四年）四月にようやく完成しました。最初の給水戸数は二千戸でしたが二〇



昭和4年に完成した町裏浄水場

〇〇年度（平成十三年度）には、十七万二千二百十八戸数になっています。